

サバイバルレースとなった第 10 戦。波乱のレースで意地を見せた Juju は、予選 23 番手から、13 位完走を果たす！



結成 2 年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing (以下、チーム)』は、10 月 10 日 (日) に静岡県・富士スピードウェイにて開催された『2026 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 10 戦』に参戦いたしました。

前日に開催された第 9 戦で厳しい戦いを強いられたチームは、夜遅くまでデータを解析し、より良いセットアップを探りました。しかし 1 大会 2 レース制の場合、セットアップ変更を試すことなく予選という状況となるので、大きなセットアップ変更には難しい判断を迫られます。

そして迎えた予選。気温 23℃、路面温度 32℃という前日よりも温かいコンディションの中、予選 B 組に出走した Juju は、アタック 5 周目に 1 分 24 秒 288 をマークしたものの、第 9 戦と同じく 23 番手グリッドからのスタートとなりました。

マシンの感触は前日より良くなったものの、まだ大きな課題が残るという状況の中、エンジニアはぎりぎりまでデータ解析を続け、決勝に向けてさらにマシンをアジャストし、決勝に向けてチームは最後の賭けに出ます。



お昼休み、応援してくださるスポンサーの方々の前で野田英樹監督や土沼広芳代表とともに挨拶をした際、昨日のレースの悔しさがこみあげてきて、思わず感情的になって言葉に詰まる Juju でしたが、応援団の拍手がそれを温かく包みました。

金曜日から3日間に渡って好天が続くという今シーズン初めてのレースウィーク最終日、午後3時の第10戦決勝スタート時には気温25℃、路面温度34℃という状況でした。

スターティンググリッドに並ぶ前のレコノンサスラップで好感触を得た Juju ですが、決勝に向けてさらにタイヤの内圧を調整し、41週のレースに臨みました。

第10戦は、ここ数年で最も荒れたレースとなりました。多くのアクシデントが発生し、セーフティカーが3度も出されるサバイバルレースとなりました。

Juju は好スタートを決めてポジションをあげたものの抜き返され、序盤は24番手でタイヤを労りながら走行を続けます。5周目にアクシデントが発生し、最初のセーフティカーが出されます。そして9周目にレース再開。Juju は22番手までポジションをアップし、11周目にピットウィンドウがオープンとなって各マシンがタイヤ交換に飛び込む中、ステイアウト作戦で次第にポジションを上げ、19周目には9番手まで浮上します。そして20周目に再びアクシデントによってセーフティカーが出されたタイミングでピットイン。タイヤ交換を終えてピットロードを駆け抜けようとした際にそのピットロードで多重クラッシュが発生。それに巻き込まれることなくレースに復帰し、17番手で走行を続けます。

セーフティカーランが終わり、24周目にレース再開と同時に第1コーナーでアクシデントが発生し、3度目のセーフティカーが出されることとなりました。

レースは最大75分間のタイムレースになるのか、規定周回数でチェッカーが振られるのか微妙な状況となり、Juju から無線で何度もピットに状況確認が入ります。

15番手を走行する Juju ですが、コーナー出口での加速が明らかに遅く、ストレート速度にも伸びが無い状況に陥り、セーフティカーランの状況ですら、前のマシンに追いつくのも苦しいと無線で訴えます。

31周目にセーフティカーがピットに戻りレース再開。再スタートと同時にポジションをふたつ上げた Juju ですが、後方から周回遅れのマシンがオーバーテイクを仕掛けた上にブロックをするという状況となり、そのチームメイトのマシンを追う Juju はペースを乱されてしまいます。

「ストレートが伸びない、加速しない」と叫ぶ Juju に対して「ストレートで離されてもコーナーで一気に縮めている。最後まで頑張て！」と野田英樹監督が激を飛ばします。

最終的にレースは規定周回数の41周でチェッカーが振られ、Juju はスタート時から10ポジションアップの13位でチェッカーを受けました。

Triple Tree Racing



Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
10	富士	41	晴れ	25℃	34℃	23 位	13 位

※気温、路面温度は決勝スタート時



◆ドライバー Juju のコメント

「昨日のレースが納得できない悔しいレースでしたので、チーム全員が夜遅くまでかかって今日の第 10 戦に向けてできる限りのことをトライしてくれました。予選順位は沈んでしまいましたが、マシンのフィーリングは昨日よりは良く、それでもまだまだ課題が多かったので、決勝までにさらにセットアップを煮詰めてもらいました。荒れたレースでしたが、自分なりに冷静に最後まで諦めずに戦えたと思います。ただ、レース中盤からエンジンの加速感が鈍くなり、ストレートスピードも全然伸びませんでした。前のマシンを抜こうとしてスリップストリームに入っても、離されるのです。ドライバーとしてはどうしてもできない状況でしたが、歯を食いしばって最後までコーナーを攻め続けました。次の鈴鹿までになんとかトラブルの原因を突き止めて、応援してくださる皆さんに、より良いレースをお見せできるように頑張りたいと思います。今日も応援ありがとうございました」



◆監督 野田英樹のコメント

「今日もストレートスピードが伸びなくて、ドライバーに辛いレースを強いることになってしまいました。チームとしても、何とか改善しようと努力を続けたのですが、むしろ今日は何か少しずつ壊れていったような症状が出てしまいました。データを分析して、次の鈴鹿までにしっかりと対処しなければなりません。エンジンが完調であれば、ストレートでライバルたちとせめて同じ程度の速さがあれば、ポイント圏内も見えていたので、もったいなかったと思います。周回遅れにブロックされるという意味不明な部分もあって、もっと青旗ルールを厳格に運営して欲しいとは思いますが、レース後に再スタート時の追い抜きに対して 30 秒加算のペナルティが課されましたが、再スタート時に直前での何台かの混乱に対してドライバーが危険回避行動をただけで、もしそこで順位を維持するために急ブレーキを踏んでいたら後続に対してさらに危険な状況を招くというドライバーの判断でした。順位を上げたことに対するペナルティだというのであれば、レースディレクターからポジションを戻す指示が出されるべきで、それもなかった状況でした。それはともかく、まずはドライバーに完璧なマシンを提供してあげて、あとは本人に頑張ってもらおうという状況に持っていくのが監督としての仕事であり、責任だと思っています。今日のレースはストレートで遅いというハンディを、ドライバーがブレーキングやコーナーリングでタイムを縮めてリカバーしてくれました。良い仕事だったと思います。コーナー区間が多いセクターでは、トップグループと遜色ない走りが出ていたの



で、ストレート速度さえあればと悔しい気持ちでいっぱいです。次のレースに向けて、できる限り対応はします。応援よろしくお願いします」

◆代表 土沼広芳のコメント

「久しぶりに大荒れのレースでしたが、ドライバーもチームもサバイバルレースを最後まで戦い抜いてくれました。特に Juju は、ストレートが遅いマシンにもかかわらず、攻めたレースを最初から最後まで諦めずに続けてくれたと思います。ストレートが遅いのは、なんとかしてあげなければと思っています。今日は厳しいレースでした。マシンのセットアップが、なかなかドライバーのパフォーマンスを引き出せる状態になっていないのが課題ですね。ストレート速度も全然遅いし、その原因がつかみ切れていない状況も、鈴鹿までになんとか解決してあげたいと思っています。今日のレースに関してはドライバーもエンジニアも、そしてメカニックたちもやることはすべてやったと思います。タイヤ交換も素晴しかったですし、ドライバーと監督の戦略に関する無線でのコミュニケーションも良かったです。今回も多くのスポンサーの方々や、ファンの方々が応援に来てくださって、温かい雰囲気の中で迎えて頂きました。とにかく明日に向けて、ベストを尽くして頑張りたいと思います。応援ありがとうございました」



◆この件に関するお問い合わせ: マネージメントアドバイザー チャーリー・チェン cac@3tree.jp

Triple Tree Racing

